

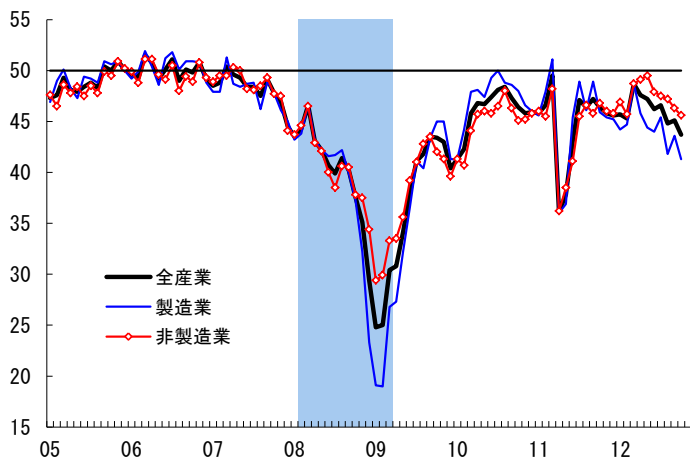
指標名：中小企業の業況(2012年10月)

発表日2012年10月25日(木)

～低調な推移が続く～

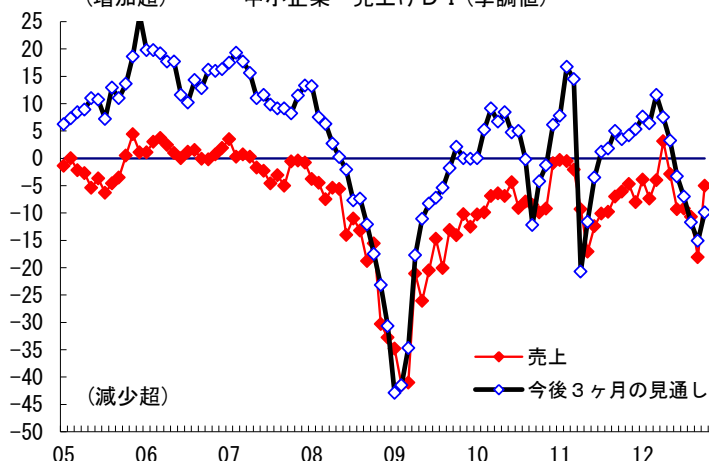
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」

中小企業 売上げDI (季調値)



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」

(注) DI=(増加-減少)企業割合

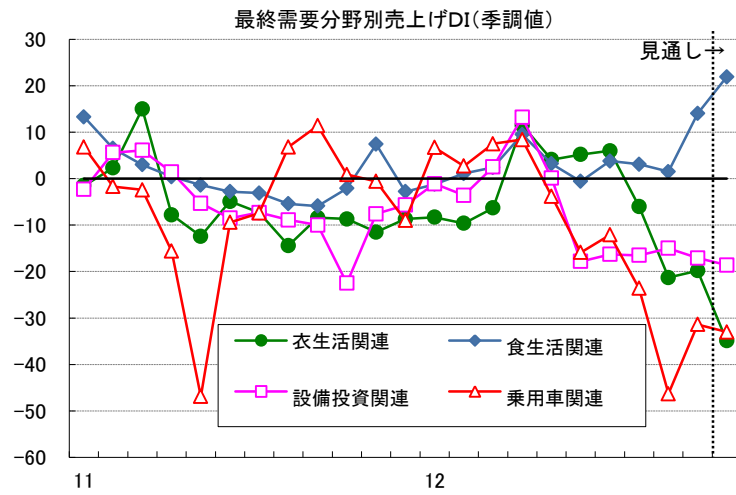
○景況判断指数：引き続き低調な推移

商工中金から公表された10月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：10月上旬)の景況判断指数(1000社調査、以下、景況指数)は、全産業で43.7(9月：45.1)と前月から低下した。引き続き海外(特に中国)からの需要の弱さが重石となったことに加え、エコカー補助金終了なども景況感を下押ししたものとみられる。一方、商工中金によれば日中関係の悪化については、非製造業では中国からの宿泊者数の減少といった悪影響もあったようだが、製造業については先行きを懸念する声はあったものの現状では悪影響を受けているという声はなかったとのことだ。

日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：10月中旬)の売上げDI(季節調整値)は▲5.0(9月：▲18.1)と上昇した。上昇幅も比較的大きい。最終需要別にみると、食生活関連や乗用車関連などが前月から改善している。食生活関連については天候の良さなどから外食需要などが良好であったことが影響したようだ。ただし、乗用車関連は前月の落ち込みからの反動とみられ、水準は依然低い。その他の業種についても概ね低調に推移していることから考えて、今月の結果をもって売上げDIが上昇基調に入ったとは言えないであろう。

○中小企業の景況感は当面低調に推移する見込み。日中問題の動向が注目される。

11月の景況指数は製造業は40.6(10月実績：41.3)と低下、非製造業は46.0(10月実績：45.6)と上昇が見込まれている。非製造業は上昇を見込んでいるが、低調な域は脱せないとの見方である。エコカー補助金終了の影響がしばらく続くことに加え、外需の回復に不透明感があることが景況感の下押し要因となろう。自動車以外の消費にもやや陰りがあることも懸念される。日中関係の悪化も長期化すれば、その悪影響が中小企業に及ぶ可能性があり、中小企業においても日中問題の動向が注目される。



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」
 (注) DI=(増加-減少)企業割合